令和４年度　朝来市立（　朝来中　）学校　学校評価

学校教育目標

郷土を愛し、自ら学ぶ心豊かな生徒の育成

総合的な学校関係者評価

落ち着いた学校生活を生徒が送れていると感じる。支援を要する生徒にもきめ細やかな指導が継続されて行われ、生徒や保護者から信頼されている。学校行事等も感染症対策を講じた上で、生徒が活躍できる場を設定し、保護者や地域にもその様子を発信できている。独居老人宅への暑中見舞いハガキや年賀状の郵送など全校生がかかわるボランティア活動は、地域の方から大変喜ばれている。今後もボランティア活動の継続を期待している。
不登校生徒の増加が大きな課題である。ゲームやSNSなどにより昼夜逆転している生徒など、これまでにない不登校生徒の出没への対応についても研修を深め、改善に繋げて頂きたい。部活動の地域移行も課題が多く、生徒が心技体ともに成長できる指導者の確保をお願いしたい。
全国的に教職員の不足などが報じられる中で、先生方への期待もこれまで以上に高まると予想されるが、ぜひその期待に応えて頂きたい。地域の学校への協力や教職員数の確保など、今後も学校運営協議会は物心両面でより良い教育環境の整備を強く求めていきたい。

自己評価　　**達成状況（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）**

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 （評価項目ごとの学校関係者評価・意見等）
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	学校便りをはじめ、学年や学級で定期的に学校や生徒の様子を情報発信できた。また、さくら連絡網を有効活用し、下校時間の変更等迅速な情報の提供に努めた。今後は、タブレット等をさらに有効活用し、双方向の情報提供や画像や動画の配信も検討し、よりリアリティーある情報の発信に努めていく。	・学校教育目標の達成率が生徒９０％、保護者８５％にある状態は誇れる状態と感じます。実際に授業参観をした時に、生徒と先生の良好な関係を感じることができ、数値に裏付けされたものと実感しました。 ・さくら連絡網で学校の様子が定期的に配信され、学校の取組や様子が良く伝わりました。今後も継続され、家庭との連携に役立つことを期待しています。 ・教職員の不足が全国的に問題視される中、本校においてもその波がおしよせ、教職員の負担増加を懸念しています。物心両面での適切な教育環境が整えられることを願っています。 ・授業参観や学校行事に参加をさせて頂いたが、生徒が落ち着いて学校生活を送っており安心しました。 ・生徒数は減少しているが、個別に対応すべき生徒は増加しているように感じる。個別の指導が適切に行える教職員数の配置や支援員等の増員を設置者へ強く要望します。 ・職員室で生徒の様子について先生方が常に会話されていると聞きます。職員同士が何でも話せる環境や情報が日々共有されていることは素晴らしいと感じます。 ・ボランティア活動により、地域の人たちとの交流の機会が増えることは良いことだと思います。生徒が活動できる場が増えることを期待しています。 ・コロナ禍で保護者同士の関わりが少ないため、今後は交流できる機会を設けていくことを願います。 ・教職員の負担軽減のため除雪作業などについては、外部委託されることを望みます。 ・全市で実施される避難訓練への合同実施などができれば良いと考えています。 ・清掃指導はとても大切な指導と受け止めています。日本特有の心の教育でもあるので、引き続き清掃ができる生徒の育成に励んで頂きたい。 ・生徒の登下校において、自転車の安全指導は地域と一体となって取り組むことが大切と考えます。
		オープンスクール（学校公開）など住民参加の教育活動の推進	A	学校行事において、保護者や学校運営協議会にも参加を呼びかけ、生徒の頑張る様子を見て頂く機会を可能な限り設けた。また、「鉱石の道」体験や職業学習では地域の方を講師に招き、郷土を愛する生徒の育成が図れた。地域で開かれる様々なイベントにも生徒がボランティアとして多く参加できた。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	学校行事において、計画段階から生徒が主体的に活動できる場を数多く設定し、リーダーの育成を図った。毎日の係や委員会活動にも様々な取組を定期的に組み込み活性化を図った。行事においては学級集団の団結が見て取れるが、日常的なより良い学級集団作りにおいては、発展途上である。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	年度当初に全生徒について生徒理解研修を実施し、生徒理解に努めた。不登校生徒等についてケース会議を随時実施し、具体的な対応について共通理解を図ったが、不登校生徒は増加した。よりきめ細かな指導について研修していく必要がある。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	毎月のいじめアンケートなど確実に行うことができた。また、事案発生時には即日の内に管理職及び関係職員で対応について協議し、改善に向けて実践できた。一方で理不尽な保護者の存在に苦慮する時期があった。保護者対応についての研修も必要と考えている。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	避難訓練においても、火災発生場所の想定を変更するなど条件を変化させ、より実効性のある活動を微細ではあるが取り組むことができた。一方で災害に関するマニュアルだけでも多大であり、全てを網羅することが難しいため、年間計画に落とし込み、数年単位で研修計画を立てる必要がある。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A	年間３回の避難訓練を、条件を変化させて実施することができた。本校校舎裏が土砂災害の指定地域になっていることなどを生徒へ周知することもできた。今後は、地域の自主防災組織との合同訓練などの実施も検討していきたい。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	日本語が話せない生徒など支援を要する生徒へ、個に応じた指導を年間通じて実施することができた。また、コロナによる出席停止生徒へのオンライン授業などにも積極的に取り組めた。定期的に校内支援委員会を実施し、現状の把握と今後の対応について教職員が合意形成を図り、共通理解して実践することができた。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	マスクの着用や毎日の検温など生徒、教職員ともしっかりと取り組むことができた。また、濃厚接触者や副反応による体調不良生徒などにも柔軟に対応することができた。一方で４０人を超える生徒が教室内で生活し、感染を予防するには限界があり、適切な環境や人員の整備を求めていきたい。	
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	人権講演会や赤ちゃん先生などの朝来ドリームアップ事業について計画通り実施でき、生徒が本物に触れ、事業の目的を達成することができた。また、本校の特色であるボランティア活動にも多くの生徒が参加し、地域の方と交流を深めることができた。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のＵＤ化の推進	B	授業の見通しを持った授業作りや定期考査でのルビ打ち問題の作成など全職員で共通して取り組むことができた。主体的・対話的で深い学びの授業の創造は、研究授業等では実践できていたが、毎日の授業では実践できない部分もまだあり、より教職員の授業づくりにおいて研修が必要である。	・学力低下が課題としてあるように感じる。小学校時の学習の積み上げや家庭学習の不足、少人数による競争力の弱体化、SNSによる悪影響など様々な課題があると想像しています。今後もより工夫した授業を実践し、学力の定着・向上に努めて頂きたい。 ・学校の掲示物等にも工夫が見られ、生徒達の成長を感じ取ることができました。 ・社会が大きく変化していく中で、生徒への対応や学習方法などにおいても、学校の中で変化していく時期だと思います。特に、SNSについては学習だけでなく日常生活でも不可欠になっているため、生徒や親、先生方も正しい使い方やより有効な使用方法について勉強していく必要があると感じます。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	毎朝ステップアップタイムを設け、数学と英語の基礎基本の定着を図った。３学期からはタブレットを活用し、個人でドリル学習の実践に取り組んだ。タブレット学習の効果の有無を検証し、より効果的な活用方法を模索しながら進めていく必要がある。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	道徳の校内研究授業を全職員参加で実施し、道徳の授業について深めることができた。市教委主催の道徳研修会参加者からも伝達講習を行い周知することができた。道徳の教科書がある一方で、他の資料の活用を求められることも多く、教材の取扱いについて計画的に進めていく必要がある。	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	B	年間計画で取り組むべき学習活動について実施することができた。また、一人１台のタブレット端末を保有したことで、調べ学習などが容易になった。今後は「調べ学習」から「まとめ学習」や発表する力に焦点をあてた学習内容を計画立案していくことが必要と考える。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	人権講演会では人権問題を自分事として捉える機会を設けることができた。また、人権集会を開催し、生徒、教職員が人権について発表し、考える場を設定できたことで人権尊重の精神の育成が図れた。一方で他者を傷つける言動も垣間見られるため、日常の中で継続した人権感覚の高揚が必要である。	・独居老人宅への暑中見舞いハガキや年賀状の郵送、お餅配りのボランティアなど地域の方は大変に喜んでおられるので、今後も継続して取り組んで頂きたい。 ・読み聞かせなどの活動を定期的に取り入れることで、より一層情操面が育成されると感じました。 ・コロナ禍の行事は、感染対策も並行して行われ、教職員の丁寧な対応には感心しました。また、その中で生徒は行事を通してコロナ禍を乗り越えようとする姿が感じられ、生徒の成長を感じることができました。 ・道徳教育や人権教育は、人それぞれの考え方があると思います。他の人がどう思ったり考えたりしているのかを知る機会にもなるので、貴重な学習だと思います。今後も引き続き有意義な時間になるよう指導をお願いしたい。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	修学旅行やトライやる・ウィークなどの体験活動においては事前学習、事後学習も含め計画的に、また生徒も主体的に取組み、充実した教育活動となった。修学旅行においては価格の高騰やトライやる・ウィークでは受け入れ先の事業所の減少などが今後の課題と考えられる。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	栄養教諭による食育授業を３年生で実施することができた。給食委員会を中心に残菜の減少に取り組む生徒の自治的な活動も実施し、効果も見られた。今後は、栄養教諭による授業を全学年で実施していくことや、中学１年時の残菜が多いことなどから小中での連携が必要と考えられる。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	行事終了後や学期ごとにキャリアノートへの記入や、キャリアノートを確実に引き継ぐなど、キャリア教育の取組が定着している。一方で、学級活動を要としたキャリア教育の実践ができておらず、今後の課題である。また、他府県へ進学した生徒のキャリアパスポートについても、その活用について中高連携が必要と考える。	
その他	・ボランティア活動の充実 ・生徒用タブレットの有効活用		B	サマーボランティア、あさご元気まつり、お餅配りなど地域のボランティア活動に多くの生徒が自主的に参加し、地域の方と交流を深め、生徒は主体的に活動する大切さを実感することができた。 積極的にタブレットを活用し、失敗も経験しながら生徒、教職員がICT機器への抵抗感を減らすことができた。接続の脆弱さなど課題はあるが、数多く使っていく中で、有効な手法を見極めながら取組の充実を図っていきたい。	・部活動の指導が地域へ移行されるが、心身両面で指導頂ける指導者の確保をお願いしたい。可能ならば経験ある先生方に指導を継続して頂きたい。